

平成25年度事業計画

一般財団法人 アジア太平洋研究所

I. 基本方針

当研究所は、アジア太平洋地域が直面している諸問題に対して課題解決型の研究調査で知的貢献し、日本・アジア太平洋地域の新たな活力創出、持続的な発展に寄与することを目指して、平成23年12月に設立された。これまでに、180余りの会員企業・団体のご支援のもと、日本とアジア太平洋地域の課題解決に繋がる研究を進めるとともに、積極的なアウトリーチ活動により、研究成果の社会還元と研究所の発展・成長に取り組んできた。

実質的に2年目となる平成25年度は、多様な知的人材・情報の交流拠点であるうめきた・ナレッジキャピタルに移転し、様々な分野の研究者との交流等により研究内容の充実を図るとともに、積極的かつ効果的なアウトリーチ活動などを通じて、プレゼンスの向上を目指す。

自主研究活動としては「アジア太平洋経済展望」と「関西発展戦略とイノベーション」の2つの分野で研究を進め、ナレッジの内部蓄積充実と若手研究者育成の観点から、調査・研究の内製化を進める。

また、ERIA（東アジア・ASEAN経済研究センター）など国内外の研究機関や大学等との交流を進めてネットワーク型シンクタンクとしての機能を強化するとともに、研究プロセスを活用した留学生等の人材育成に取り組む。

さらに、経済界のニーズを反映した研究活動と成果の発信により、経済界との関係を強化し、研究活動を支える財政基盤の強化を目指す。

II. 事 業

1. 研究調査

ビジネスや政策立案に直接資するような実証的研究、将来に向けた予測や課題提起・政策提言のための事前蓄積となる研究、そして研究成果やデータ自体が公共財または研究インフラとなるような研究、これらの分野をクロスオーバーしながら研究を推進していく。

テーマ選定や成果報告などの段階に応じて、研究推進委員会等を通じ、経済界の意見やニーズを反映し、さらなる有用性の向上を目指す。

(1) 自主研究調査

研究分野を前年度の3分野から整理し、「アジア太平洋経済展望」と「関西発展戦略とイノベーション」の2つを柱として研究活動を推進していく。

ナレッジの内部蓄積充実と若手研究者育成の観点から、研究統括・研究員が研究プロジェクトのリーダーを務めるなどにより、調査・研究の内製化を進めていく。

①アジア太平洋経済展望

「アウェー市場の魅力とリスク」を中心テーマとして、地域全体の政治経済学的展望、各国経済の概観、関西企業進出の現状等を明らかにした上で、実践的立場からの課題解決方策、非伝統的安全保障を含むリスクの評価、およびそれへの対応策について分析する。

- 東アジアの輸出指向型工業化の落とし穴
- 中小企業の東南アジア進出に関する実践的研究
- 日本企業立地先としてのアジアの魅力とリスク
- 環太平洋経済協力をめぐる日・米・中の役割
- 東南アジアにおける電力市場の発展と日本企業
- 日米の超短期経済予測と ASEAN への適用可能性
- 世界の人口と経済に関する超長期データベースの作成
- 中国における賃金および賃金格差の分析と中国景気モニター
- アジアの自然災害リスク
- 非伝統的安全保障

②関西発展戦略とイノベーション

「新たな成長産業を求めて」を中心テーマに掲げながら、定点観測としての日本経済・関西経済の予測においても常に関西の有望産業をモニターし、関西の将来を牽引する成長産業(健康、環境、サービス等)の検討や、あるべき産業構造を俯瞰する。

- 関西地域の成長牽引産業の展望
- 関西企業におけるイノベーションと人材
- 日本経済および関西経済の短期予測
- 関西・アジア諸国間の経済連動関係の分析と関西独自景気指標の開発
- 邦銀のアジア展開と国際競争力
- グリーン&レジリエントなサプライチェーン構築に関する研究
- 新しいマクロ経済モデルの理論と応用 : 地方財政および関西経済への応用可能性の検証

③その他

上記のほか、政策形成に資する研究調査等を適宜行う。

(2) 受託研究調査

国、経済団体、民間企業等からの研究調査受託に努める。

2. アウトリーチ活動・会員サービス

多様な知的人材が集まり、ともに考えるオープンな研究所を目指す観点から、研究成果の広範囲かつ的確な発信と、会員企業をはじめ一般も対象とした講演会・セミナー等の開催を積極的に進める。

(1) シンポジウムの開催

うめきた移転後の当研究所が目指す姿や今後の研究活動ビジョンを会員企業などに広くアピールするために、5月に移転記念シンポジウムを開催する。

(2) 研究調査活動成果の発信および『関西経済白書』の刊行

研究調査活動の成果を、会員企業のみならず政策立案者や一般等も対象に、広範囲かつ的確に発信する。具体的には、研究成果報告の記者発表、報告書のホームページ掲載、研究成果を活用したAPIRフォーラム（仮称）の開催等、多彩な手法による発信を行う。また、これまで以上に活発かつタイムリーな情報発信を行うため、定期記者会見を実施する。

また、『関西経済白書』を新年度からの研究活動ビジョンに合わせて編集し、引き続き刊行する。

(3) 講演会、セミナー等の開催

時宜にあったテーマ設定による講演会・セミナー等を開催し、当研究所の認知度を高めていく。具体的には、当研究所のネットワークを活かした講師陣によるAPIRセミナー（仮称）や、他団体との協働イベントを開催し、うめきた移転による利便性向上を活かし、会員企業をはじめ多くの集客を図る。

(4) ホームページの運営、メールマガジンの発行

研究者を軸として各種コンテンツを紹介できるホームページへ全面リニューアルを実施する。また、コンテンツ間の関連づけや、アクセスランキングの提示、報告書等の再データベース化によりアクセスの利便性を向上させ、当研究所のプレゼンス向上を図る。

メールマガジンの配信回数を従来の月2回から増やし、話題に応じてタイムリーに研究所内外の活動に関する情報を発信する。

3. 研究所基盤のさらなる強化

(1) うめきた移転による研究環境の充実

多様な知的人材・情報の交流拠点であるうめきた・ナレッジキャピタルに移転し、様々な分野の研究者との交流等による新しい知的価値創造の環境を整備する。

(2) ネットワーク型シンクタンクへの取り組み

うめきた・ナレッジキャピタルの知的交流機能を最大限活用して、国内外の研究者や大学・研究機関との関係構築を積極的に進め、ネットワーク型シンクタンクとしての機能強化を図る。

E R I A（東アジア・ASEAN 経済研究センター）との間で、双方に共通するテーマについて、研究活動・シンポジウムへの相互参加などの研究交流を推進していく。

(3) 研究プロセスを活用した人材交流・育成

海外からの留学生を研究プロジェクトのメンバーに迎えることなどにより、研究活動を通じた人材の交流・育成を図る。

(4) 財政基盤の強化

充実した研究活動を支える財政基盤強化の観点から、うめきた・ナレッジキャピタル移転を契機としてさらに強化していくアウトリーチ活動との連動等により、関西のみならず全国の企業等を対象に、会員企業・団体との関係強化および新規会員の獲得に努める。

以 上